

§ 論理分解データの記述方法について

本ドキュメントは、論理分解データの記述方法について記載するものである。

注意) 本ドキュメントは、JSON 形式について知見のある読者を対象としており、JSON 形式について基礎的な説明はおこなわない。

目次

1. 論理分解データの構成	2
2. 論理分解データの書式	3
2. 1. licenses.json	3
2. 2. actions.json	7
2. 3. conditions.json	9
2. 4. notices.json	11
3. 補足事項	13
3. 1. 文字のエスケープ	13
3. 2. サンプルデータについて	13

1. 論理分解データの構成

本章では、論理分解データの構成について説明する。

論理分解データは、JSON 形式の4種類のファイルで構成されている。

表 1. 論理分解データを構成するファイルの説明

#	分類	ファイル名	説明
1	ライセンス情報	licenses.json	OSS ライセンスの内容をユースケース・責務・免責について論理的に分解しまとめた情報。ライセンスのユースケース・責務・免責は、それぞれ「ユースケース情報」「責務情報」「免責情報」の各ファイルの該当箇所を参照するためのユニークな ID が記載される。
2	ユースケース情報	actions.json	OSS ライセンスのユースケースをまとめた情報。各ユースケースには、ユニークな ID が割り当てられる。
3	責務情報	conditions.json	OSS ライセンスの責務をまとめた情報。各責務には、ユニークな ID が割り当てられる。
4	免責情報	notices.json	OSS ライセンスの免責事項をまとめた情報。各免責事項には、ユニークな ID が割り当てられる。

上記の4種類のファイルは参照関係を持っており、licenses.json から actions.json、conditions.json、notices.json のそれぞれのファイルに記載されるユースケース・責務・免責事項をユニークな ID で参照する。

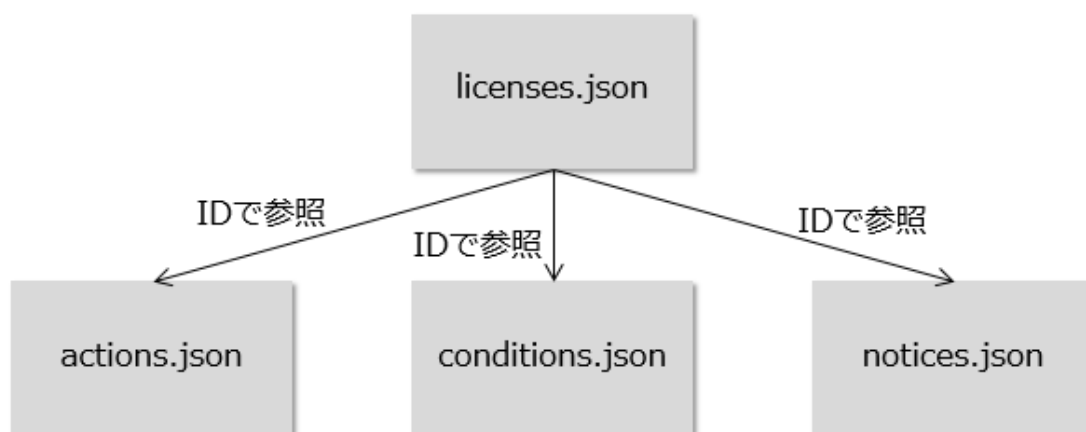


図 1. 論理分解データの参照関係

2. 論理分解データの書式

本章では、論理分解データの書式について説明する。

2. 1. licenses.json

licenses.json の書式に関する説明を以下に記載する。

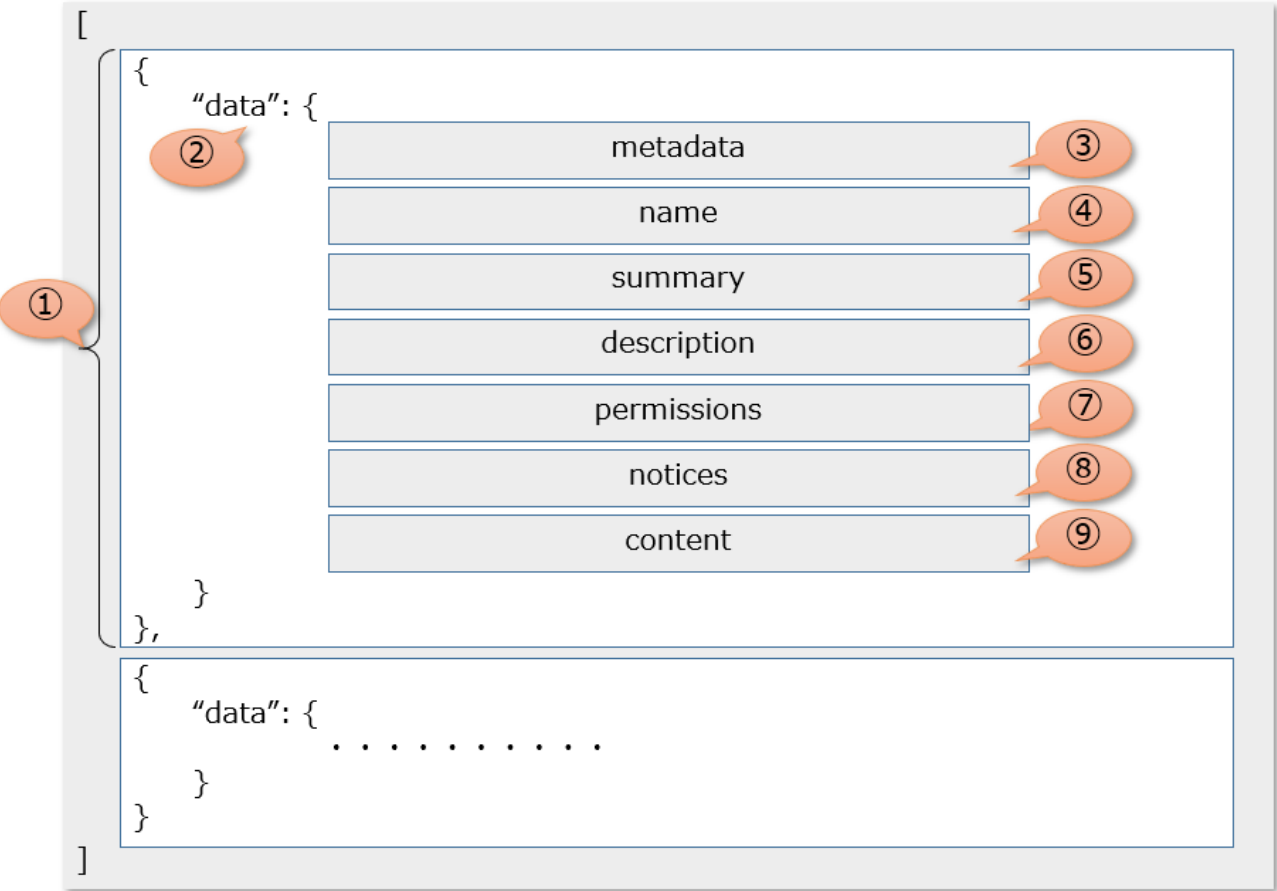


図 2. licenses.json の書式イメージ

表 2 . licenses.json の記述内容に関する説明

#	記述箇所	記述内容	記述例
①	-	1 つのライセンス分の記述。複数のライセンスがある場合は、これを複数記述する。 注意) 後続のライセンスの記述がない	(省略)

		場合は、最後の返し括弧のカンマ(",")は省略する。	
②	data	ライセンスに関する記述のトップ要素。	(省略)
③	メタデータ	data に関する情報を記述する。	－
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ schemaVersion スキーマの任意のバージョン。 	"schemaVersion": 0.1
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ uri ライセンスを識別するための URI。 	"uri": "http://open-license.hitachi.com/licenses/14"
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ baseUri "ref"属性で参照するための相対 URI の基礎部分。 	"baseUri": "http://open-license.hitachi.com/"
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ id ファイル内で一意なライセンスの ID。 	"id": "licenses/14"
④	name	ライセンスの名称を記述する。	"name": "Ruby License (1.9.2 and earlier)"
⑤	summary	ライセンスの概要を記述する。	－
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ language 言語の種別 (日本語:ja、英語:en) 	"language": "ja"
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ text ライセンスの概要。 	"text": "BSD-3-Clause"
⑥	description	ライセンスの説明を記述する。	－
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ language 言語の種別 (日本語:ja、英語:en) 	"language": "ja"
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ text ライセンスの説明。 	"text": "<OWNER> は著作権者に相当することになる。"
⑦	permissions	ユースケースと責務のリストを記述	－

		<p>する。以下の summary, description, actions, conditionHead を纏めたグループを複数記述できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ summary permissions の概要。 ※子要素は⑤と同様。 ➤ description permissions の説明。 ※子要素は⑥と同様。 ➤ actions ユースケース情報を参照するための情報。 ref 属性には、ユースケース情報の参照先 ID を記述する。 ➤ conditionHead ※1 参照。 	
⑧	notices	<p>免責情報の参照先を記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ ref 免責情報の参照先 ID。 	<p>—</p> <pre>"notices": [{ "ref": "notices/5" }, { "ref": "notices/7" }],</pre>
⑨	content	<p>ライセンスの内容を記述する。</p>	<pre>"content": "The BSD 3-Clause License¥r¥n¥r¥n The following is a ……"</pre>

※ 1 : conditionHead 要素の記述内容に関する説明を以下に示す。

この記述例では、「責務 5 または (責務 15 かつ責務 20)のいずれかが責務として適用される」ことを示している。

表 3. conditionHead 要素の記述内容に関する説明

記述箇所	記述内容	記述例
conditionHead	責務に関する情報を記述する。	－
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ type 責務の条件のタイプを記述する。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ AND 子要素が“かつ”の条件。下記 children 要素と共に記述する。 ✓ OR 子要素が“または”の条件。下記 children 要素と共に記述する。 ✓ LEAF 責務そのもの。下記 ref 要素と共に記述する。 	<pre> "conditionHead": { "type": "OR", "children": [{ "type": "LEAF", "ref": "conditions/5" }, { "type": "AND", "children": [{ "type": "LEAF", "ref": "conditions/15" }, { "type": "LEAF", "ref": "conditions/20" }] }] } </pre>
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ children ライセンスを識別するための URI。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ref ファイル内で一意なライセンスの ID。 	

2. 2. actions.json

actions.json の書式に関する説明を以下に記載する。

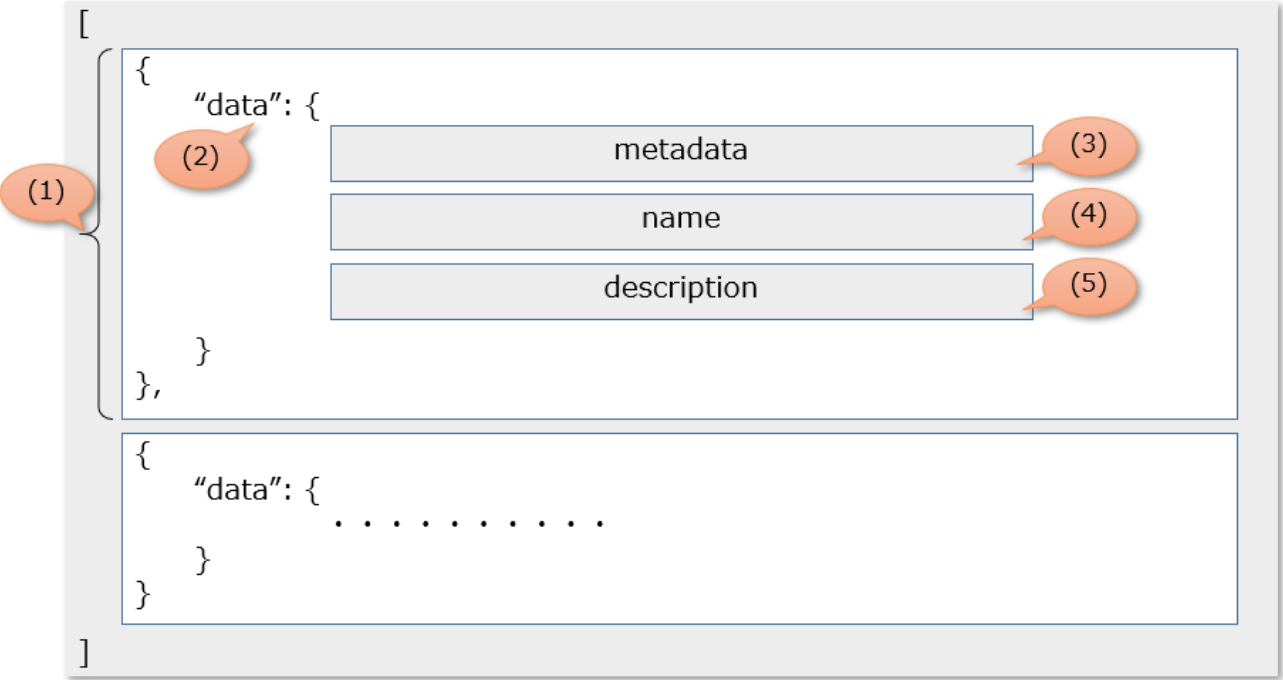


図 3. actions.json の書式イメージ

表 4. actions.json の記述内容に関する説明

#	記述箇所	記述内容	記述例
①	－	1つのユースケース分の記述。複数のユースケースがある場合は、これを複数記述する。 注意) 後続のユースケースの記述がない場合は、最後の返し括弧のカンマ(",")は省略する。	(省略)
②	data	ユースケースに関する記述のトップ要素。	(省略)
③	メタデータ	dataに関する情報を記述する。 ➤ schemaVersion スキーマの任意のバージョン	－ "schemaVersion": 0.1

		ン。	
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ uri ユースケースを識別するための URI。 	"uri": "http://open-license.hitachi.com/actions/1"
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ baseUrl "ref"属性で参照するための相対 URI の基礎部分。 	"baseUrl": "http://open-license.hitachi.com/"
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ id ファイル内で一意なユースケースの ID。 	"id": "actions/1"
④	name	ユースケースの内容を記述する。	–
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ language 言語の種別。 (日本語:ja、英語:en) 	"language": "ja"
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ text ユースケースの内容。 	"text": "取得したソースコードを改変せずに使用する"
⑤	description	ユースケースの説明を記述する。	–
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ language 言語の種別。 (日本語:ja、英語:en) 	"language": "ja"
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ text ユースケースの説明。 	(省略)

2. 3. conditions.json

conditions.json の書式に関する説明を以下に記載する。

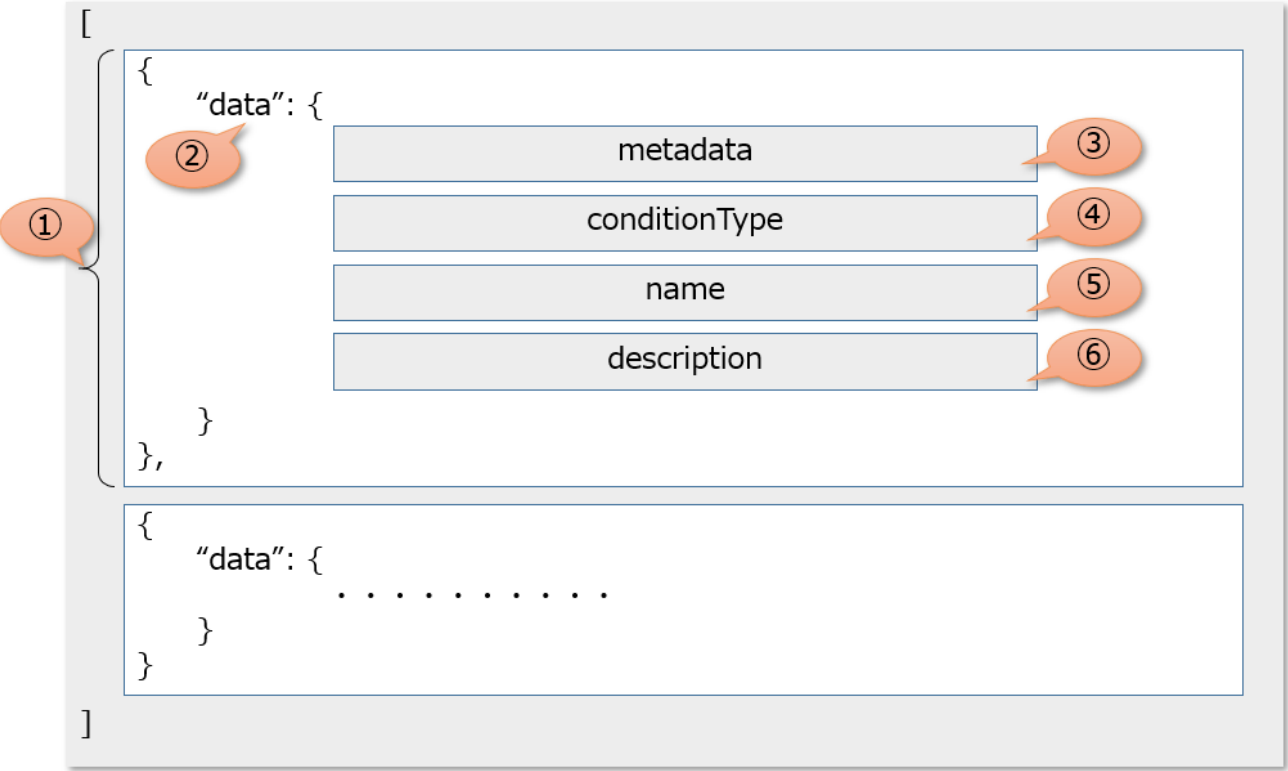


図 4. conditions.json の書式イメージ

表 5. conditions.json の記述内容に関する説明

#	記述箇所	記述内容	記述例
①	—	1 つの責務分の記述。複数の責務がある場合は、これを複数記述する。 注意) 後続の責務の記述がない場合は、最後の返し括弧のカンマ(",")は省略する。	(省略)
②	data	責務に関する記述のトップ要素。	(省略)
③	メタデータ	data に関する情報を記述する。	—
		➤ schemaVersion スキーマの任意のバージョン	"schemaVersion": 0.1

		<p>ヨン。</p> <p>➤ uri 責務を識別するための URI。</p> <p>➤ baseUri “ref”属性で参照するための相対 URI の基礎部分。</p> <p>➤ id ファイル内で一意な責務の ID。</p>	<p>"uri": "http://open-license.hitachi.com/conditions/1"</p> <p>"baseUri": "http://open-license.hitachi.com/"</p> <p>"id": "conditions/1"</p>
④	conditionType	<p>責務の種類を記述する。</p> <p>✓ OBLIGATION 必ずおこなうべき事項。</p> <p>✓ RESTRICTION おこなってはいけない事項。</p> <p>✓ REQUISITE 必要に応じておこなうべき事項。</p>	"conditionType": "OBLIGATION"
⑤	name	<p>責務の内容を記述する。</p> <p>➤ language 言語の種別。 (日本語:ja、英語:en)</p> <p>➤ text 責務の内容。</p>	<p>—</p> <p>"language": "ja"</p> <p>"text": "ライセンスに含まれている著作権表示、条件一覧、免責事項を含める"</p>
⑥	description	<p>責務の説明を記述する。</p> <p>➤ language 言語の種別。 (日本語:ja、英語:en)</p> <p>➤ text 責務の説明。</p>	<p>—</p> <p>"language": "ja"</p> <p>(省略)</p>

2. 4. notices.json

notices.json の書式に関する説明を以下に記載する。

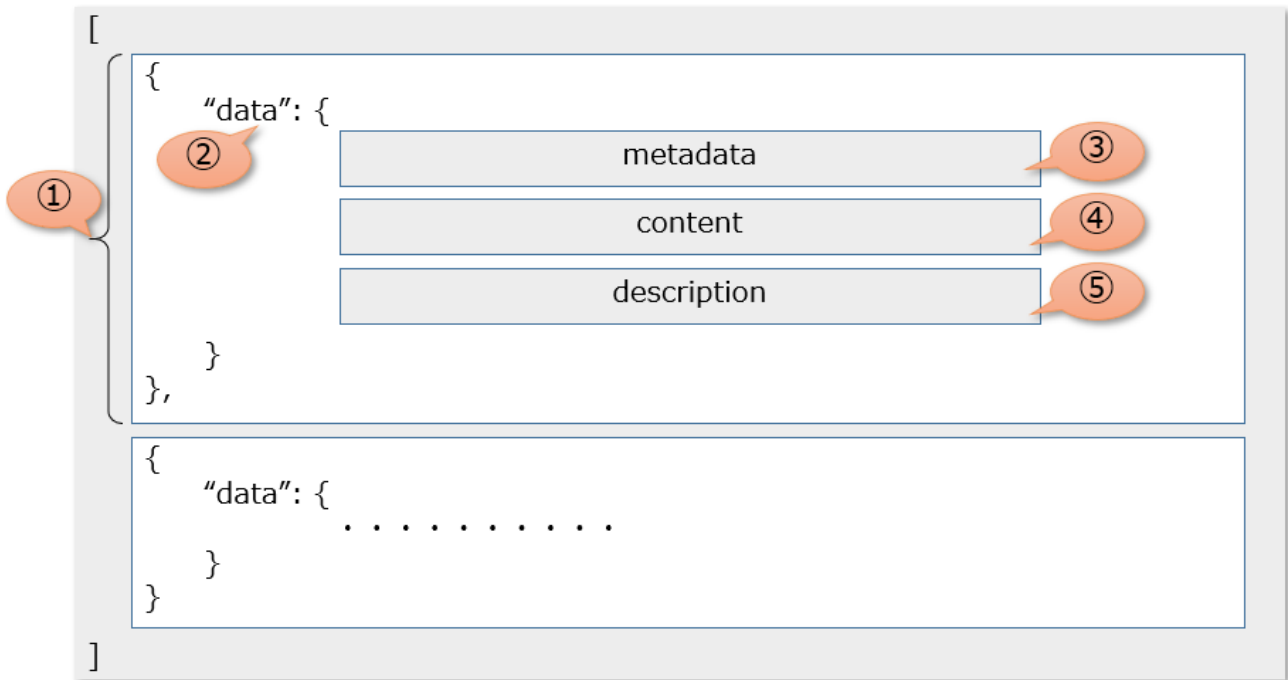


図 5. notices.json の書式イメージ

表 6. notices.json の記述内容に関する説明

#	記述箇所	記述内容	記述例
①	—	1つの免責事項分の記述。複数の免責事項がある場合は、これを複数記述する。 注意) 後続の免責事項の記述がない場合は、最後の返し括弧のカンマ(",")は省略する。	(省略)
②	data	免責事項に関する記述のトップ要素。	(省略)
③	メタデータ	dataに関する情報を記述する。	—
		➤ schemaVersion スキーマの任意のバージョン。	"schemaVersion": 0.1
		➤ uri	"uri": "http://open-

		免責事項を識別するための URI。	license.hitachi.com/notices/1"
		➤ baseUri "ref"属性で参照するための相対 URI の基礎部分。	"baseUri": "http://open- license.hitachi.com/"
		➤ id ファイル内で一意な免責事項の ID。	"id": "notices/1"
④	content	免責事項の内容を記述する。	—
		➤ language 言語の種別。 (日本語:ja、英語:en)	"language": "ja"
		➤ text 免責事項の内容。	"text": "当該ソフトウェアは、「現状 のまま(as-is)」で提供されており、明 示であるか黙示であるかを問わず、 いかなる保証もない。"
⑤	description	免責事項の説明を記述する。	—
		➤ language 言語の種別 (日本語:ja、英語:en)	"language": "ja"
		➤ text 免責事項の説明。	(省略)

3. 補足事項

3. 1. 文字のエスケープ

以下の例のように、ダブルクォート(“)で区切られている文字列内にダブルクォート(“)を使用する場合は、ダブルクォート(“)を円マーク(”¥”)でエスケープすること。

例：

```
"BSD 3-Clause ¥"New¥" or ¥"Revised¥" License"
```

3. 2. サンプルデータについて

株式会社日立製作所 は、GitHub に論理分解データのサンプルを公開しており、以下の URL にアクセスし取得できる。

URL：

```
https://codeload.github.com/Hitachi/open-license/zip/master
```

以上